

焼岳の火山活動解説資料（平成 29 年 11 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

8 月上旬に、規模は小さいながらも低周波地震とともに噴気が観測されたことから、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図 1、図 2－①、図 4）

北陸地方整備局が設置している焼岳北監視カメラ（焼岳の北北西約 4 km）による観測では、北峰付近の噴気孔からの噴気の高さは概ね 50m 以下で経過しています。同局設置の焼岳南西斜面監視カメラ（焼岳の西南西約 2.5 km）による観測では、岩坪谷上部の噴気孔からの噴気の高さは概ね 100 m 以下で経過しています。黒谷火口からの噴気は観測されませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図 2－②、図 3）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しています。

火山性微動は観測されていません。

・ 地殻変動の状況（図 2－③～⑤、図 4）

GNSS¹⁾ 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図 1 焼岳 山頂部及び南西斜面の状況
(左図：11 月 2 日 焼岳北監視カメラ、右図：11 月 7 日 焼岳南西斜面監視カメラ)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

今回の火山活動解説資料（平成 29 年 12 月分）は平成 30 年 1 月 12 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図 (タイル)』『2 万 5 千分 1 地形図』『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用しています (承認番号：平 29 情使、第 798 号)。

【地震の計数基準の変遷】開 始	2010 年 8 月 2 日～2010 年 9 月 21 日	中尾振幅 0.5 $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P 2 秒以内
変更①	2010 年 9 月 22 日～2011 年 3 月 10 日	中尾振幅 0.5 $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P 1 秒以内
変更②	2011 年 3 月 11 日～2013 年 9 月 30 日	中尾振幅 3.0 $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P 1 秒以内
変更③	2013 年 10 月 1 日～	中尾振幅 2.0 $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P 1 秒以内

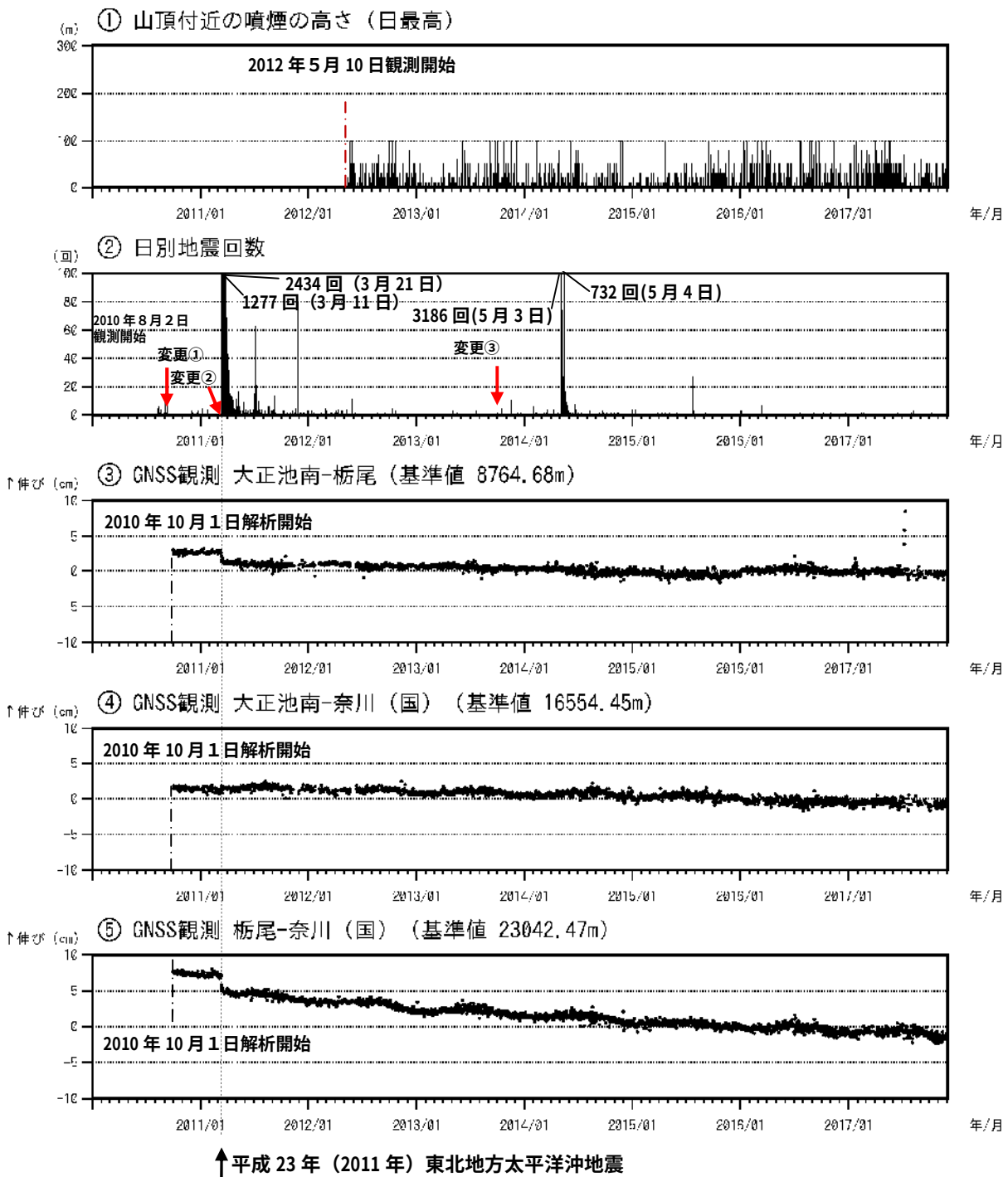


図 2 焼岳 火山活動経過図（2010年8月2日～2017年11月30日）

② 焼岳周辺の日別地震回数

「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」以降、焼岳周辺で地震活動が活発な状況となりましたが、その後、地震活動は低下しました。2014 年 5 月 3 日から 4 日、2015 年 7 月 24 日に一時的に活発化した後は低下しています。

③～⑤ GNSS 連続観測による基線長変化（国）：国土地理院

「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」の影響により、ステップ状の変化がみられます。

③～⑤は図 4 の GNSS 基線③～⑤に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。

2016 年 1 月以降のデータについては、解析方法を変更しています。

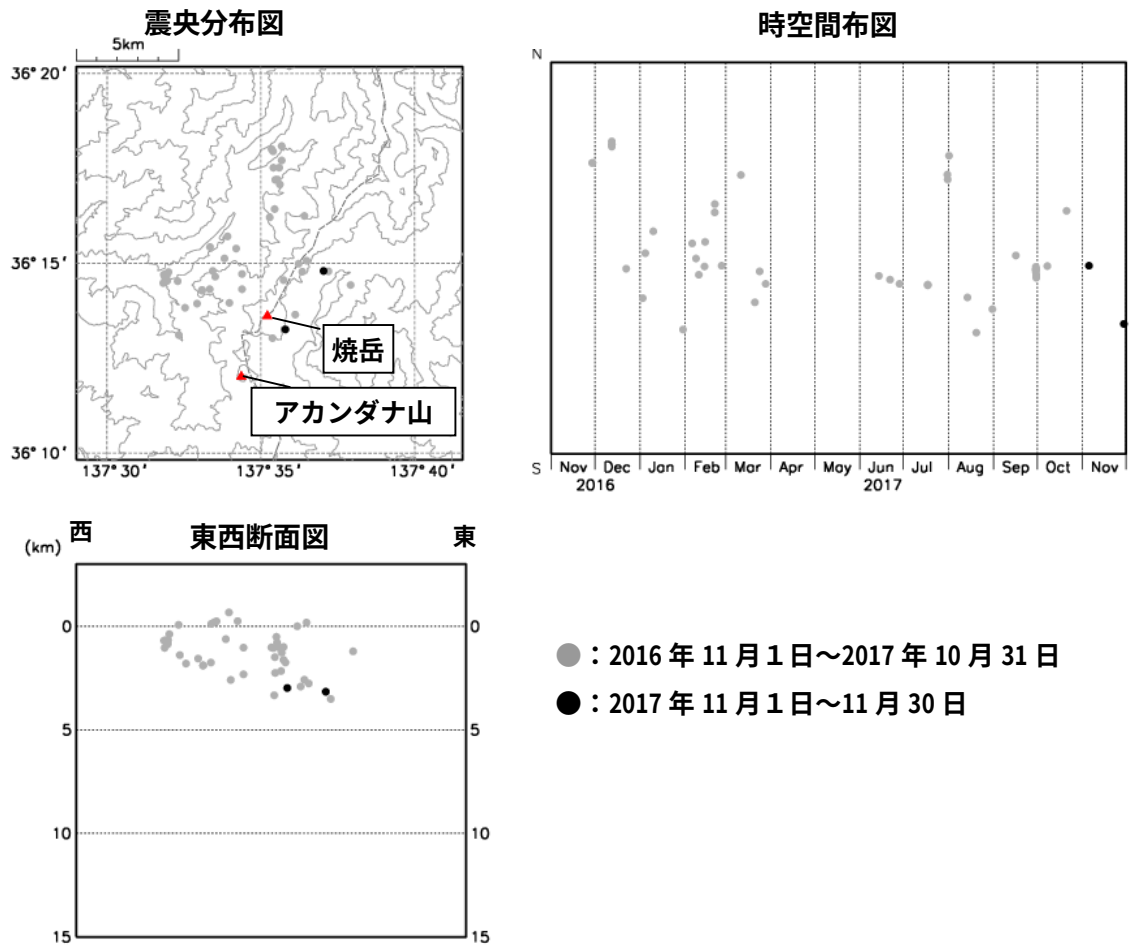


図3 焼岳 震源分布図（2016 年 11 月 1 日～2017 年 11 月 30 日）
 ・火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しています。

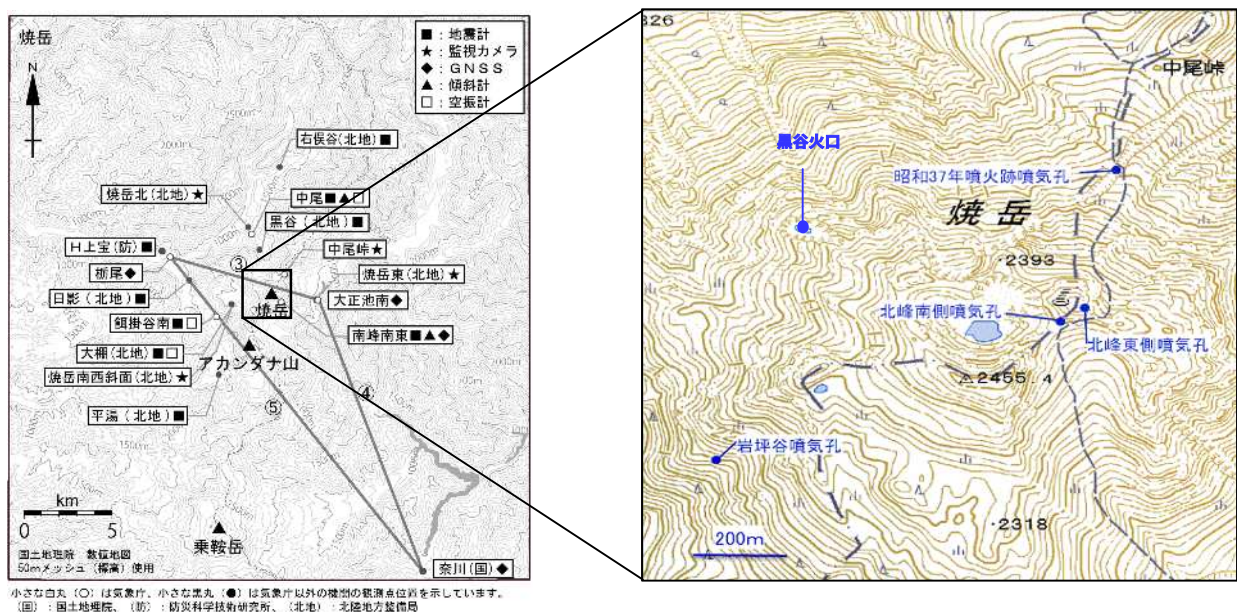


図4 焼岳 観測点配置及び噴気孔位置
 ・GNSS 基線③～⑤は図2の③～⑤に対応しています。